



かけはし

宇部市立楠中学校だより

第5号

令和8年(2026年)7月17日(金)

<http://www.ube-ygc.ed.jp/ksj/>



すてきな大人へ一歩近づきました！

楠中生のみなさん、1学期が終了しました。慌ただしく駆けぬけた日々、充実した69日間となったでしょうか。授業中、誰よりも積極的に発表した人、毎日大きな声であいさつをした人、清掃活動にひたむきに取り組んだ人、汗をいっぱいかいて部活動に没頭した人、「目配り・気配り・思いやり」をもって仲間に優しく声かけした人、地域行事に積極的に参加した人。楠中生はこの69日間で「すてきな大人」へ一歩近づきました。

終業式の話～『後悔のフレーズ』でスタートしないために～

「始業式の日から今日までの101日間(2424時間)が過ぎようとしています。あっという間だったのではないのでしょうか。楽しかったこと、うれしかったこと、悲しかったこと、辛かったこと、様々な思いで101日間を過ごしたことでしょう。あれをしておけばよかった、あれをしなければよかったと思うことがたくさんあるはずです。ところで、1学期でみなさんの『頭と心の偏差値』は上がりましたか。

予告しておきます。8月25日(火)2学期始業式で夏休みの38日間(912時間)を振り返って『頭と心の偏差値』は上がりましたかと、みなさんに尋ねます。

8月25日(火)に「早くから宿題をしておけばよかった。あれをしなければよかった」と同じような『後悔のフレーズ』で、これから始まる夏休みを終えてほしくないのが、野球好きな私が尊敬している先輩校長から教えてもらった一冊の本『甲子園への遺言(伝説の打撃コーチ高畠導宏《たかばたけみちひろ》)』を紹介します。

高畠導宏さんは、高校教師でした。彼は平成16年夏、還暦を迎えてわずか半年足らずのまだ60歳の時にすい臓がんで亡くなりました。この高校教師は、ちょっと変わった経歴の持ち主なのです。実は30年間にわたって、なんとプロ野球の打撃コーチを務めていたのです。しかし、この伝説の打撃コーチは、50歳代半ばで一発発起し、高校教師になるために通信教育で勉強を始めるのです。そして、5年かけて教員免許をとり、社会科の教師として教壇に立ち、甲子園をめざすのです。彼の育てたチームは着々と成長していくのですが、志半ばで、病に倒れるのです。

そんな彼が長いプロ野球打撃コーチ時代に感じたことを彼の周囲の人に語った言葉の中に、次のことがあります。『挫折していった多くの選手と成長した選手の間には、はっきりとした違いが見えてきました。それは、成長した選手にはいくつかの共通点がある。』として、次の7点を挙げていました。

- | | |
|--------------------------|--------------|
| 1 素直であること | 2 好奇心旺盛であること |
| 3 忍耐力があり、諦めないこと | 4 準備を怠らないこと |
| 5 几帳面であること | 6 気配りができること |
| 7 夢をもち、目標を高く設定することができること | |

この7つの共通点は、人生そのものが伸びる人の共通点である気がします。「生きる力」に繋がるし、「すてきな大人」にも繋がります。この夏休みにさらに「頭と心の偏差値」を伸ばすことを期待しています。やればできる！君たちならできる！

【1学期終業式校長式辞から】

「暑い夏」「熱い夏」、「感動」と「感謝」の日々を

7月に入って、「暑い、暑い」と何度言ったでしょうか。今年の夏休みも暑くなるに違いありません。まさに「猛暑」「酷暑」そして「炎暑」がぴったりの夏が続いています。もう「暑」という文字すら見たくなく、うんざりしてしまいそうです。

さて、同音の「あつい」でも、「熱い」があります。今年も夏の甲子園大会が「熱い夏」を日本中に届けることは間違いありません。高校球児が一心不乱に白球を追う姿、ベンチから仲間を鼓舞する姿、スタンドから高校球児を応援する保護者や友だちの姿などが私たちを熱くさせます。

この夏の甲子園大会で、高校球児の活躍が私たちに「感動」を与えることになるのは間違いありません。私は球児たちのプレーだけでなく、球児たちのインタビューに注目します。どの球児たちも必ずと言ってよいほど「感謝」の言葉を述べることに胸が熱くなり、「感動」を覚えます。

甲子園に出場するほどの高校球児ともなれば、自然と「感謝」の言葉が言えるのだと思いますし、強くなっていく過程で「感謝」の言葉を身に付けていくのかもしれませんが、ひょっとすると、選手たちのプレーにその「感謝」の気持ちが乗り移り、すばらしいプレーとなって、観ている者に「感動」を与えるのかもしれませんが。

私がお世話になっている校長先生から作家「ひすいこうたろう」さんの言葉を教えていただいたので、紹介させていただきます。

「感謝」という言葉には「謝」という文字が使われています。「謝罪」「謝意」といった言葉にも「謝」という文字が使われています。「謝」とは何でしょう。よく字を見てください。「謝」とは「言葉で射る」と書きます。言葉にださなきゃあ感謝じゃないんです。「ありがとう」「ごめんなさい」。その気持ちは言葉に出さなきゃあ、相手には伝わらないんです。言葉にすればあなたの気持ちは一秒で伝わります。「ありがとう」・・・の気持ちが・・・。

球児たちが「ありがとう」という言葉を口々に発すれば、その言葉を聞いた人たちは「心で感じ」、そして、「心や体が動く」ものです。「がんばってくれ! 私たちもしっかり応援するよ! そして、ありがとう」という気持ちになります。プレーする人も、それを応援する人も、そしてテレビで観戦する人も、それぞれが「感謝」の言葉を紡ぎ合っているのだと感じます。暑い日が続きますが、楠中生には「熱い」、「感動」「感謝」の日々を続けていってほしいものです。

自分自身の生活に目を向けてみます。家族や友達に「ありがとう」「ごめんなさい」そして「はい」をどれだけ自分の言葉と笑顔で心の底から言っているでしょうか。「感謝」を伝えているでしょうか。夏休みに実践してみてください。

自分の心と言葉と態度で、お互いが敬意を払いながらコミュニケーションをとる。心と心でキャッチボールをして、「心の潤い」を育て合う、あいさつが飛び交う、そんなすてきな夏休みしましょう。やればできる! 君たちならできる!



※船木小学校との合同あいさつ運動を7月9日(木)16日(木)に実施しました。中学校側の提案を受けてくださった船木小学校の先生方、中学生と一緒に活動した生活運営委員会の児童のみなさんに感謝です。これからも小中の絆を深めていきましょう!